

果試ニュース

第19号 平成15年8月



せとかの着果状況

「潮待ちの人もみかんの話かな」

これは昨年度開催された「第3回みかんの国俳句大賞」の大賞に選ばれた句です。船の時間待ちをしている人たちが、もっぱらみかんのことを話題にしている。出来はどうだ、価格はどうかと。投句をした時期を考えると、おそらく13年産みかんのことを話し合っている情景を詠んだものと思われます。選者は「穏やかなみかんの国に生きる人々のゆったりした暮らしぶりが伺える」と評していますが、私から見ると、懸命の需給調整をして、何とか目標生産量を達成できた。にもかかわらず予想を超える価格低落となり、たぶん嘆きの話題であったろうとつい想像してしまいます。

さて、15年産みかんも夏の日差しを浴びて肥大が進んでいるところですが、国は一昨年、昨年と厳しかった需給動向を踏まえて、本年の全国生産目標量を115万トン（本県19万5千トン）、生食用を86万トンとする、かなりタイトな指針を発動しました。13年産から始まった需給調整対策、経営安定対策の新しい制度は一部からは不満も聞かれますが、需給調整は全国ベースで実施してこそ効果が表れるものであるだけに、生産者の皆さんには小異を捨ててまずは生産目標の達成に努力して頂きたい。と同時にマルチの面積を今まで以上に推進するなど一層の高品質果実生産をすすめ、「売り手市場」としての優位性を確保して頂きたいと願っています。

「風吹いてみかん山より笑い声」

これはジュニア賞を受賞した句です。笑顔で収穫の秋を迎えたいものです。

場 長 世良親臣